

泉大津市文化財調査報告 56

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 39

2020・3

泉大津市教育委員会

例　言

- 1、本調査概報は、泉大津市教育委員会が市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において開発行為に先立って実施した発掘調査報告書である。
- 2、本調査は国庫補助事業(補助対象経費2,020,000円(国庫補助率50%・市負担率50%)として泉大津市が計画・実施したものである。
- 3、本事業は平成31年度事業として平成31年4月1日に着手し令和2年3月31日に完了した。
- 4、調査は下記の構成で実施した。

〔調査主体者〕 泉大津市教育委員会

〔事務局〕 泉大津市教育委員会事務局

生涯学習課長 鍋谷芳比古・生涯学習課文化財係 奥野美和・岸本和美

- 5、調査・遺物整理事業に従事したものは下記の通りである。

坂口昌男・山下美幸

- 6、本書の座標は世界測地系を使用している。

- 7、出土品および原図・写真類は泉大津市教育委員会事務局が保管している。

- 8、本書の編集及び執筆は奥野・岸本が行った。附編執筆は岸本が行った。

- 9、土色は調査員の主觀を尊重し、特に統一を図っていない。

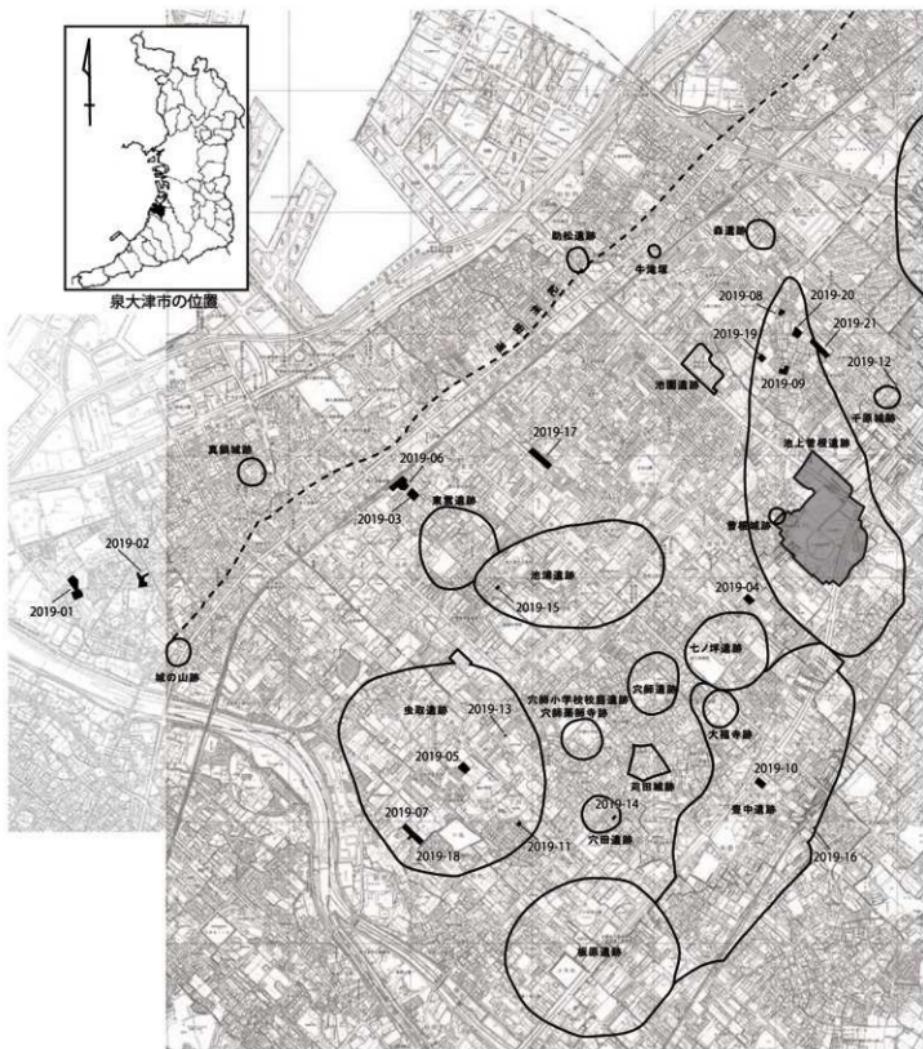
目　次

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境…3
2. 埋蔵文化財調査の現状…3

第2章 試掘確認調査結果

1. 穴田遺跡…4
 2. 池浦遺跡…5
 3. 豊中遺跡…6
 4. 池上曾根遺跡…11
 5. 虫取遺跡…17
 6. 千原城跡…23
 7. 周知の埋蔵文化財包蔵地外…24
 8. その他立会調査…30
- 遺物観察表…31
- 附編…32
- 発掘調査概報抄録



第1図 泉大津市の位置と市内遺跡分布図・発掘調査位置図（1/20000）



第2図 市内展望（市役所本庁舎から豊中遺跡を望む）

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に位置する。北部・東部は高石市と和泉市に接し、南部は大津川を境として泉州郡忠岡町と隣接している。泉州地域東部及び南部には大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として多くの河川が北に流れ大阪湾に注いでいる。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な洪積段丘面及び沖積地が形成されている。泉大津市の大部分はこの沖積地上に立地されており、市域の標高は20m未満である。

市の面積は13.56km²（平成30年12月12日現在）で、うち約4.63km²が公有水面の埋立地である。人口74,548人（令和元年12月1日現在）、東西約5.4km南北約5.5kmにわたる都市である。

市域は昭和40年頃から開発が進み、現在は全城が市街化されている。大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線からJR阪和線にかけての住居地域と商工業地域及び農耕地が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域等に大きく分けることができる。住宅地域には助松町の紀州街道沿いと豊中町の泉穴神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。

近年古民家や工場の取り壊しが進み、跡地を宅地分譲するケースが増えており、のこぎり屋根の毛布工場が立ち並んだ街並みにも変化がみられる。

表1 遺跡別工事件数内訳

	穴田遺跡	穴原遺跡	六条小学校 校舎遺跡 ・穴原美術館 跡	池浦遺跡	豊中遺跡	七ノ井遺跡	池上曾根遺跡	虫取遺跡	板原遺跡	東薗遺跡	千原城跡	真鍋城跡	井田跡	工事別合計
個人住宅	1	3	2	6	1	10	13	1	3					40
ガス・上下水道	2	1	4	6	2	6	14		3		1	1	1	40
電話・電気							1							2
分譲住宅		1	1	1		2	6	2						13
共同住宅	1				1	1								3
店舗					1									1
宅地造成		1		1		1	2		2					7
公共工事								1						0
その他					2						1			4
遺跡ごと合計	1	3	6	7	18	3	20	37	3	9	1	1	1	110

届出件数110件

表2 試掘確認調査一覧

調査番号	調査年月日	遺跡名	所在地	用途	調査対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)
2019-01	1月 11日	範囲外	河原町114番5、125番1	宅地造成	2412.5	13.4
2019-02	1月 15日	範囲外	清水町83番、84番1、84番3、85番、90番の各一部及び水路敷・里道敷	共同住宅	1345.9	9.7
2019-03	2月 7日	範囲外	東薗町200番1	宅地造成	1270.6	9.3
2019-04	2月 26日	範囲外	北豊中町一丁目570番1	宅地造成	1020.5	4.7
2019-05	4月 24日	虫取遺跡	我孫子二丁目26番2	宅地造成	1165.8	6.6
2019-06	5月 17日	範囲外	東薗町243番1、244番1の一部、244番3、249番4、249番5、249番6	共同住宅	2334.5	19.6
2019-07	5月 27日	虫取遺跡	北豊中町一丁目260番4、263番	宅地造成	1463.5	8.3
2019-08	6月 4日	池上曾根遺跡	森町一丁目104番1の一部	宅地造成	439.6	6.6
2019-09	6月 12日	池上曾根遺跡	森町二丁目132番1、132番2、132番12の一部、132番16の一部、132番17	宅地造成	1148.5	9.9
2019-10	7月 11~12日	豊中遺跡	東豊中町二丁目950番6	店舗	902.4	30.1
2019-11	7月 19日	虫取遺跡	補祐町二丁目196番	個人住宅	101.6	3.6
2019-12	8月 20日	千原城跡	千原町二丁目220番	その他建物	661.6	6.4
2019-13	9月 4日	虫取遺跡	板原町一丁目253番9、253番13	個人住宅	88.3	4.0
2019-14	9月 25日	穴田遺跡	我孫子31番1、穴田23番1	個人住宅	290.5	6.0
2019-15	10月 11日	池浦遺跡	下条町168番36	個人住宅	64.2	3.6
2019-16	11月 22日	豊中遺跡	豊中町三丁目28番346	個人住宅	100.1	4.6
2019-17	12月 2日	範囲外	東薗町1番1、2番1、3番1、4番1、5番、6番1	宅地造成	2613.2	11.7
2019-18	12月 11日	虫取遺跡	板原町一丁目262番、260番7、263番1の一部	宅地造成	1330.5	7.2
2019-19	12月 13日	池上曾根遺跡	森町二丁目163番1、163番4、163番5、163番6	共同住宅	525.2	6.6
2019-20	12月 16日	池上曾根遺跡	森町一丁目266番1、267番1	分譲住宅	1797.2	11.6
2019-21	12月 16日	池上曾根遺跡	森町一丁目100番3の一部	分譲住宅	916.5	5.0

表3 立会調査一覧

調査年月日	遺跡名	所在地	用途	調査対象面積 (m ²)
9月30日	虫取遺跡	虫取町2丁目1419番～2丁目1461番地内	下水管敷設	58.5

第2章 試掘確認調査結果

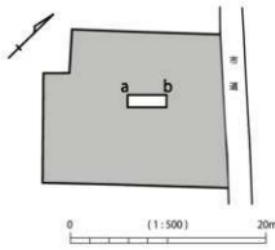
1. 穴田遺跡

2019-14地点（我孫子31番1、穴田23番1 調査日：令和元年9月25日 調査面積：6.0m²）

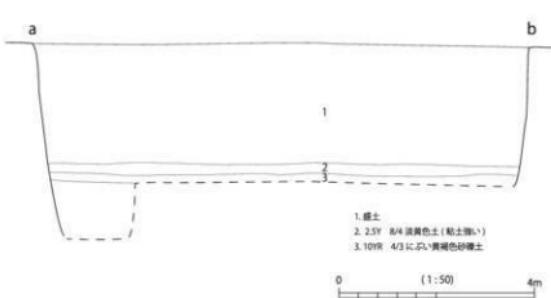
個人住宅建設に伴う試掘確認調査である。当該地は穴田遺跡の東部に位置し、工事に際し地盤改良が予定されたため、調査を行った。

地表面から約130cmは盛土で、以前の建物を建てる際の整地土層である。整地土層は2層に分かれ、地表面から約120cmは褐色土層が堆積し、その下は礫層が約10cm堆積する。盛土の下は淡黄色土が約10cm堆積している。この層は水田に伴う底土と考えられ、耕作土は整地の際に削平されたため失われたと推測される。その下はぶい黄褐色砂礫土が60cm以上堆積し、河川が存在したものと考えられる。

明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかつたとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



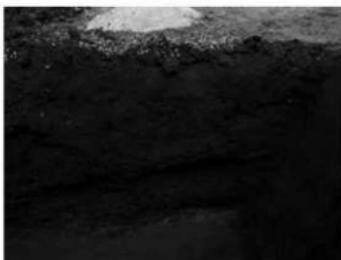
トレンチ位置図（1:500）



土層断面図（1:50）



トレンチ全景（南東から）



北東壁面

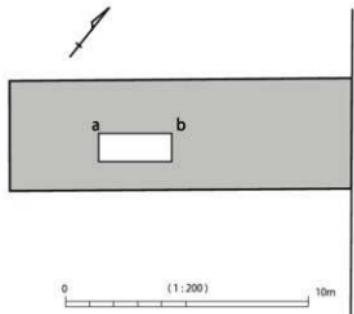
2.池浦遺跡

2019-15地点（下条町168番36 調査日：令和元年10月11日 調査面積：3.6m²）

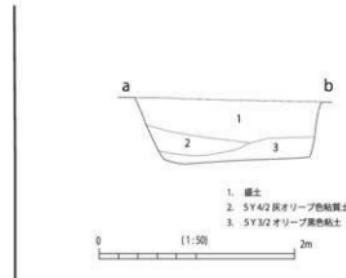
個人住宅建設に伴う試掘確認調査である。地盤改良工事が予定されたため、調査を行った。

当該地は池浦遺跡の西部に位置し、「角右衛門池」というため池を造成した地域である。地表面より60～70cmの盛土が堆積する。その下には灰オリーブ色砂質土が20～40cm、オリーブ黒色粘土が10～30cm堆積する。これらはため池由来する土層と考えられる。当該地はため池を埋め立てた地域であるという知見と矛盾するものではない。盛土は、ため池を埋め立てて造成した際の客土と考えられる。

明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかつたとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



トレンチ位置図（1:200）



土層断面図（1:50）



トレンチ全景（北東から）



北西壁面

3. 豊中遺跡

2019-10地点（東豊中町二丁目959番6 調査日：令和元年7月11日～12日 調査面積：30.1m²）

店舗建設に伴う試掘確認調査である。当該地は豊中遺跡の中央部に位置し国道26号線東側に隣接する。1987年に店舗建築に伴う開発が予定されたことから、約428m²の発掘調査が行われ、竪穴住居跡、溝等が確認されている。今回建替えの計画があり、未調査部分に遺跡を破壊する恐れのある工事が予定されたことから、対象部分の調査を実施した。

未調査部は既往の調査区の北、東、西部に3か所、計およそ30m²である。それぞれ1～3区と設定した。以下区ごとに報告する。

1区

西部の3分の1は既存の建物により削平を受け、土層も遺構面も確認できなかった。東部の残存部を観察すると、地表面から60cmは盛土である。その下に耕土と考えられる黒褐色土が5cm堆積する。耕土の下に黄灰色土、にぶい黄色土がそれぞれ20cm堆積しており、須恵器、土師器細片を含む遺物包含層である。この下に遺構面と考えられる黄灰色砂礫土がある。遺構面を精査したが遺構は確認されなかった。

2区

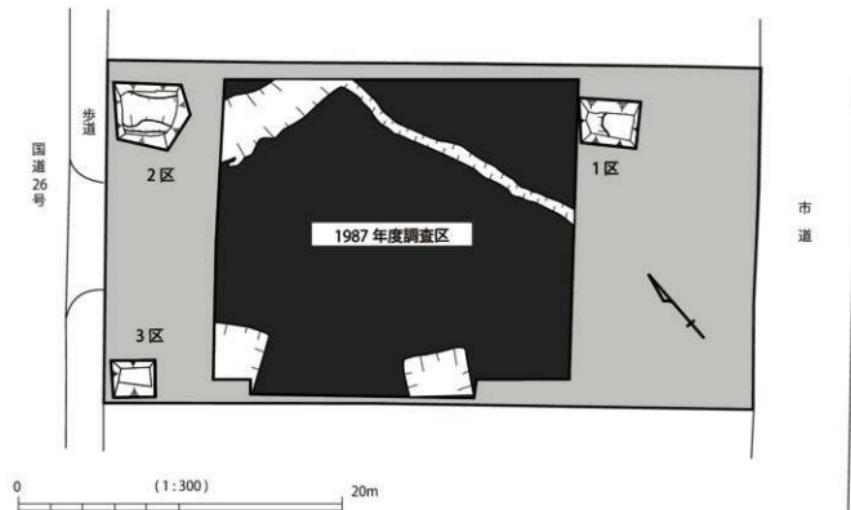
地表面から60～70cmが盛土で、その下に灰黄褐色粘質土が10～20cm、黄褐色粘土が30cm堆積する。調査区からは2条の溝が確認された。SD01は最大幅72cm、最大深27cmで北西～南東方向の調査区外にのびる。SD02はSD01に切られており、最大幅155cm、最大深22cmで北西～南東方向の調査区外にのびる。

3区

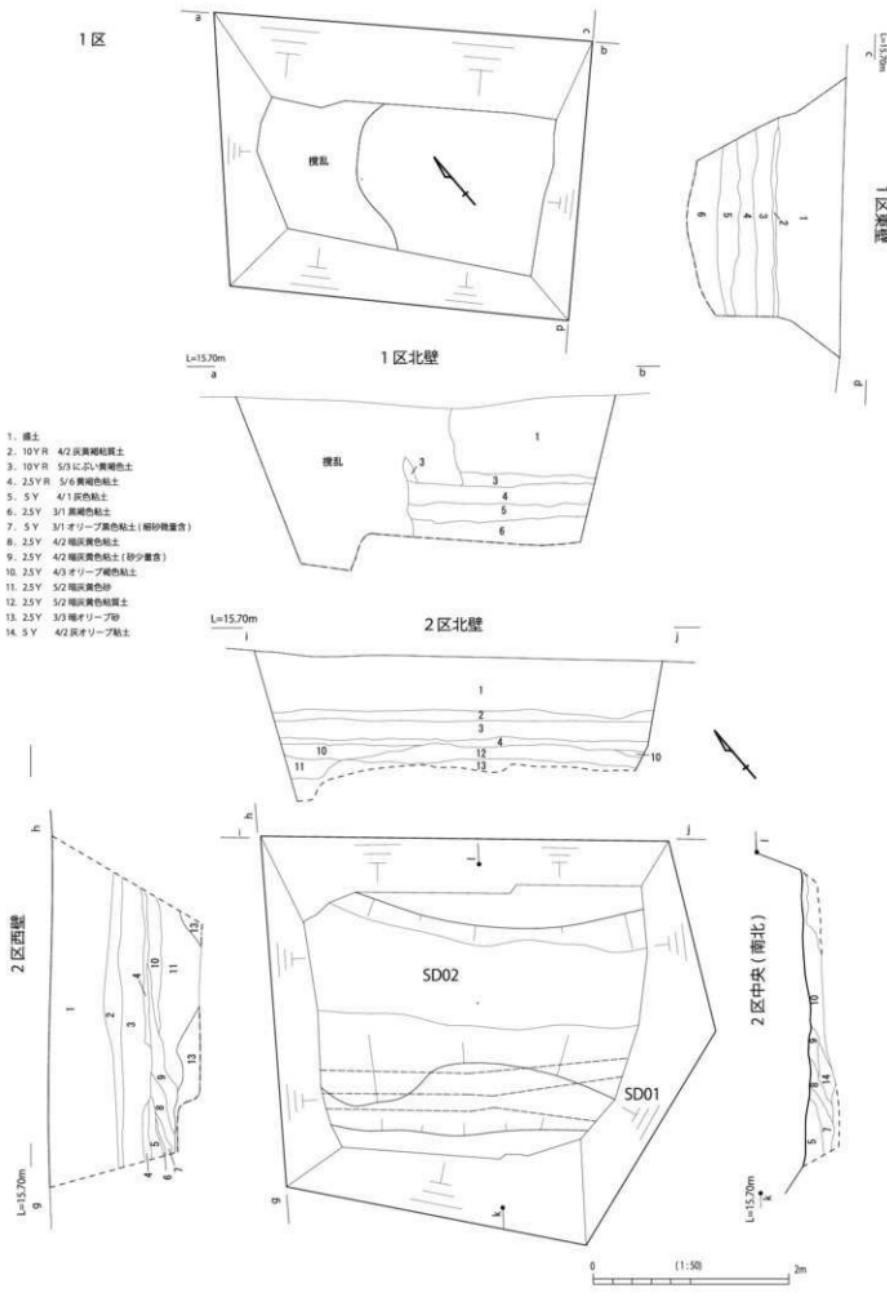
既存の構築物により削平を受け、遺構面は確認できなかった。

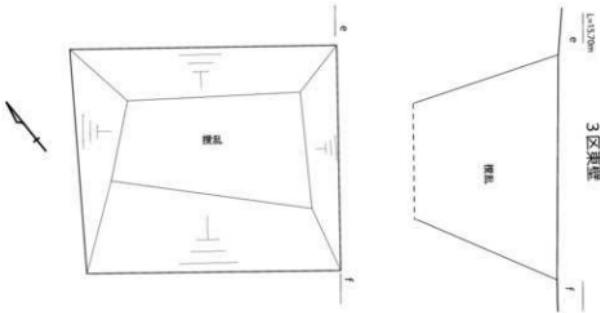
以上の調査と既調査を検討すると、2区で確認された溝は1987年の調査で確認されている河川状遺構の一部分と考えられる。このため2条の溝ではなく、埋没の時期差を示すと考えるのが適当かもしれない。遺構内から古墳時代の土師器高杯の脚部等が出土しており、既調査の様相と矛盾しない。

1～3区各々で、測量調査、写真撮影等を実施し、調査を終了した。



調査区位置図 (1:300)





3区平面図・断面図 (1:50)



1区全景



1区北壁・東壁



2区遺構検出状況 (北から)



2区全景 (東から)



2区北壁



2区西壁



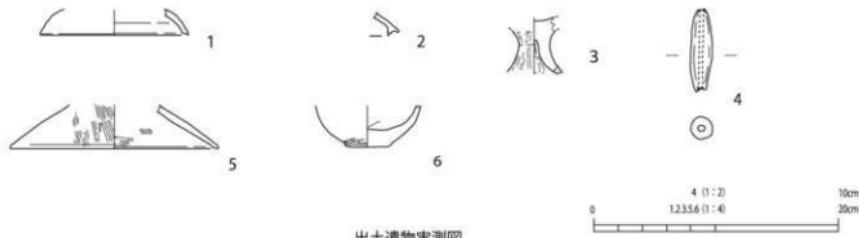
3区全景



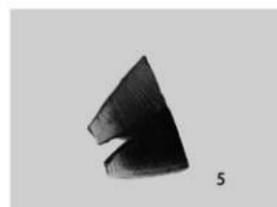
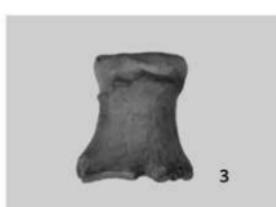
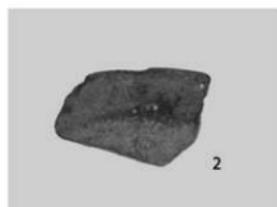
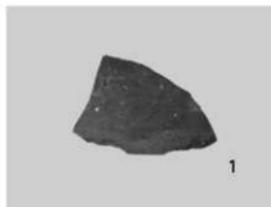
3区南壁

出土遺物

出土した土器のうち6点を図化した。1、2は須恵器の蓋である。1は2区包含層、2は1区包含層より出土した。3は土師器の高杯の脚部である。円形透かしが1ヶ所残る。2区の溝から出土した。4は土師質の土錐、5は土師器楕円高杯の脚部である。4、5は2区包含層から出土した。6は土師器の甕である。外面にわずかにタタキの痕跡が残る。2区の溝から出土した。1~6全て古墳時代に属する。



出土遺物実測図



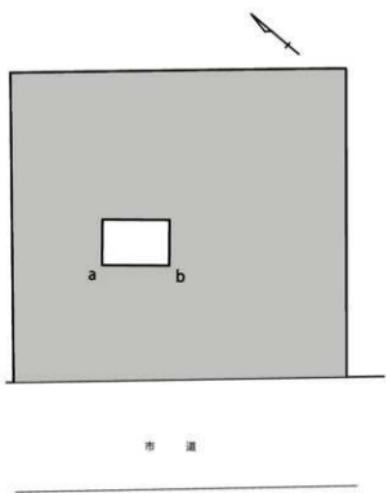
出土遺物写真

2019-16地点（東豊中町三丁目28番346 調査日：令和元年11月22日 調査面積：4.6m²）

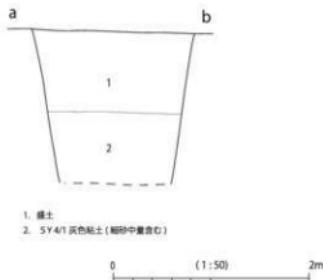
個人住宅建設に伴う試掘確認調査である。当該地は豊中遺跡の東部に位置し、「新池」というため池を造成した地域にある。地盤改良工事が予定されたため、調査を行った。

地表面より約130cmの盛土が堆積する。その下は灰色粘土が110cm以上堆積する。これはため池に由来する土層と考えられる。当該地はため池を埋め立てた地域であり、ため池であったという知見と矛盾するものではないと思われる。

明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかったとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



トレンチ位置図（1:200）



西壁面図（1:50）



全景（南から）



西壁面

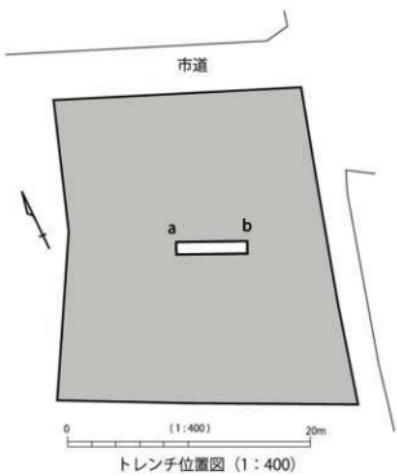
4. 池上曾根遺跡

2019-08地点（森町一丁目104番1の一部）調査日：令和元年6月4日 調査面積：6.6m²

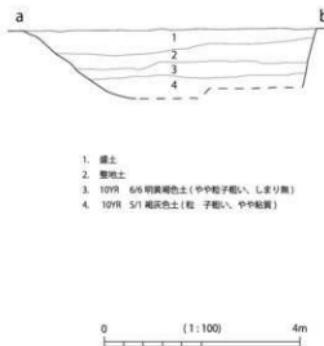
宅地造成に先立つ試掘確認調査である。当該地は池上曾根遺跡の北端、南海中央線の東側に位置する。地表面は南海中央線から60～70cm程高い。調査区の中央付近にトレンチを1本設定し掘削を行った。

地表面から70～80cmは盛土である。その下に明黄褐色土層が20～30cm堆積する。この層からは、土器片が確認されたため遺物包含層と考えられる。包含層の下は、褐色土層が堆積していた。この層はやや粘質性があることから湿地帯の痕跡と考えられる。この層を調査区中央付近から東側で、更に20cm程掘削したが、湧水が激しく掘削を終了した。

明確な遺物・遺構は確認されなかったことから、遺跡が確認されなかつたとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



トレンチ位置図 (1:400)



土層断面図 (1:100)



全景(東から)



北壁面

2019-09地点（森町二丁目132番1、132番2、132番12の一部、132番16の一部、132番17

調査日：令和元年6月12日 調査面積：9.9m²

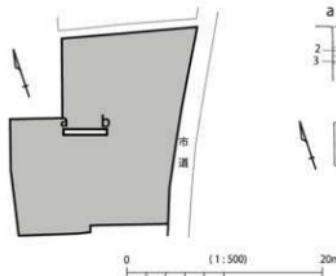
宅地造成に先立つ試掘確認調査である。当該地は池上曾根遺跡の北部に位置する。調査区の中央付近にトレンチを1本設定し掘削を行った。

地表面から20～40cmは盛土、その下に現代の整地土層と考えられるにぶい橙色土層が20～30cmが堆積し近代以降の瓦などが多く混じる。その下は橙色砂質土が10～20cm、明褐色砂層が20～30cm堆積する。

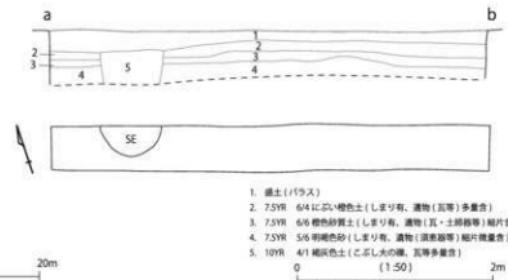
橙色砂質土層は近世以降の土師器片、瓦片を多く含み近世の整地土と考えられる。明褐色砂層からは須恵器片、土師器片がわずかに確認され、遺物包含層と考えられる。この下層は砂層が続き遺物は確認できなかった。

トレンチの西部で直径1.3mの土坑を確認した。近代以降の井戸と推定される。この土坑は現代の整地土と推定されるにぶい橙色砂質土を切って掘削されており、埋土も現代の瓦等を多く含むため、掘削は行わなかった。

明確な遺構は確認されなかったことから、遺跡が確認されなかったとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



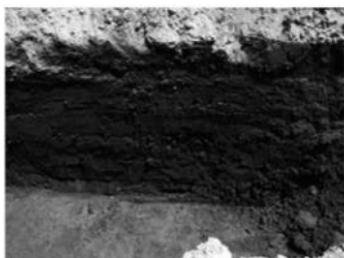
トレンチ位置図 (1:500)



土層断面図 (1:50)



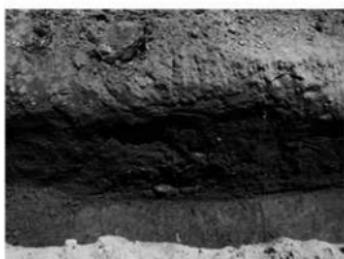
全景(東から)



北壁面



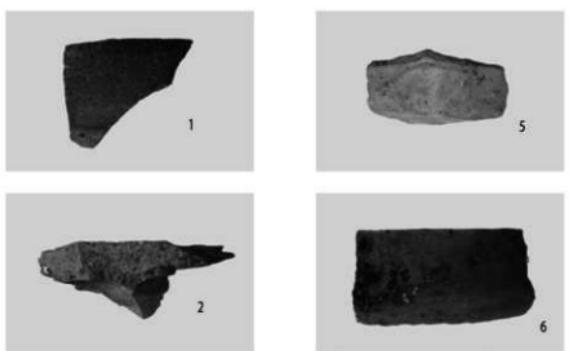
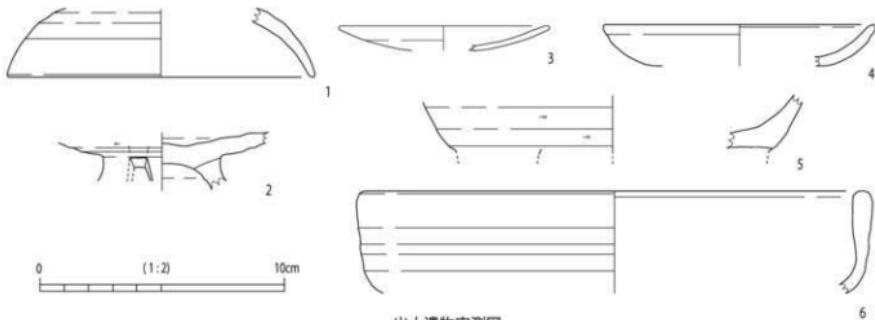
井戸検出状況(西から)



井戸断面(北から)

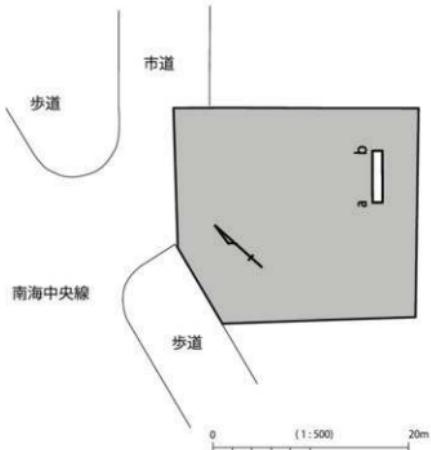
出土遺物

出土遺物のうち6点を図化した。1は須恵器の蓋である。2は高杯で、長方形の透かしが1ヶ所に残る。1、2共に包含層より出土し、古墳時代に属する。3、4は土師質の皿である。5は土師質土器の底部である。6は土師質の炮烙である。3～6は井戸より現代の瓦などに混じって出土した。江戸時代に属すると考えられる。



出土遺物写真

2019-19地点（森町二丁目163番1、163番4、163番5、163番6 調査日：令和元年12月13日
調査面積：6.6m²）

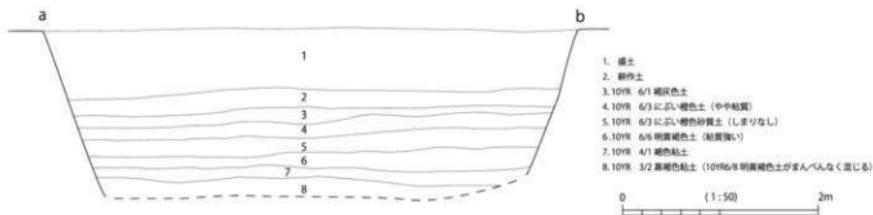


トレンチ位置図 (1:500)

共同住宅建設に伴う試掘確認調査である。当該地は池上曾根遺跡の北端、南海中央線のすぐ東側に位置する。

地表面から60~70cmは盛土が堆積し、その下に耕作土が約20cm堆積する。その下に褐灰色土が約10cm堆積し、この層には須恵器の細片が含まれていた。その下はにぶい橙色土が約10cm、にぶい橙色砂質土が約20cm、明黄褐色土、褐色粘土が各約10cm、黒褐色粘土が約20cm以上堆積する。明黄褐色土より下層は粘質性があり、調査地周辺は湿地帯であったと推測される。

湧水が著しく、これ以上の調査は不可能であった。明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかつたことから、遺跡は確認されなかつたとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



土層断面図 (1:50)



全景(西から)



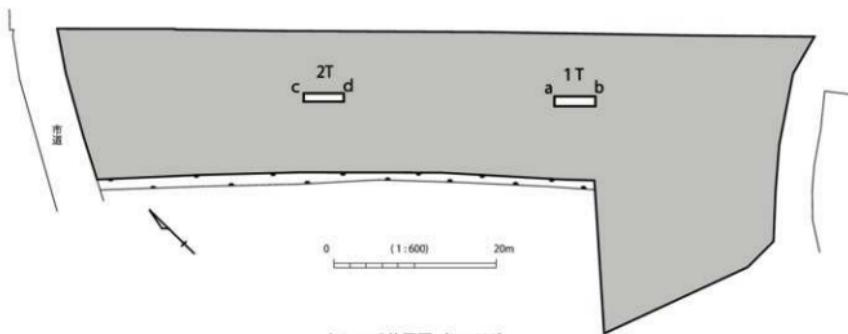
南壁面

2019-20地点（森町一丁目266番1、267番1 調査日：令和元年12月16日 調査面積：11.6m²）

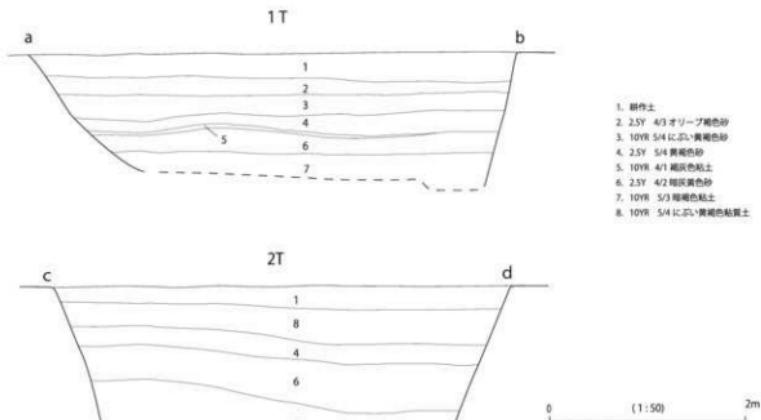
分譲住宅建設に伴う試掘確認調査である。当該地は池上曾根遺跡の北東端に位置する。開発道路部分にトレーニングを2ヶ所設定し、掘削を行った。

第1トレーニングは地表面から約30cmは耕土が堆積する。その下は、オリーブ褐色砂、にぶい黄褐色砂、黄褐色砂が各々10~20cm堆積する。黄褐色砂の下は、褐色粘土が約4cm、暗灰黄砂が約20cm、暗褐色粘土が40cm以上堆積する。湧水が著しく、これ以上の掘削が不可能になったため、調査を終了した。第2トレーニングも地表面より約30cmは耕土が堆積する。その下はにぶい黄褐色粘土が20~30cm、黄褐色砂が約20cm、暗灰黄砂が40~50cm、暗褐色粘土が40cm以上堆積する。両トレーニングの共に、旧河川の存在が考えられる。

明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかったとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



トレーニング位置図 (1:600)



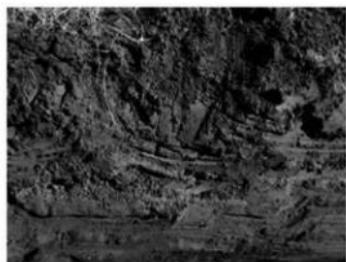
1T 全景 (南東から)



1T 北東壁面



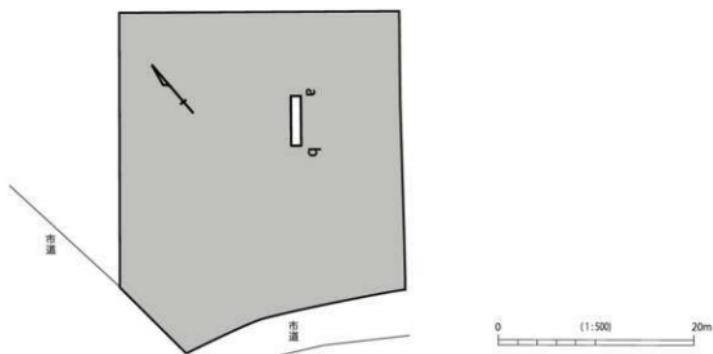
2T 全景 (南東から)



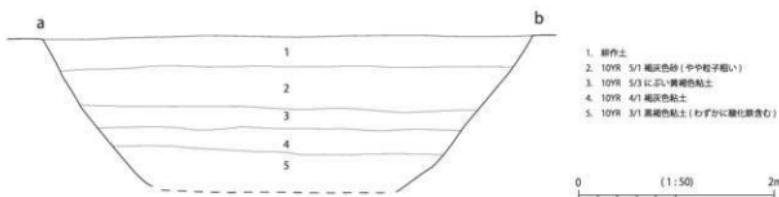
2T 北東壁面

分譲住宅建設に伴う試掘確認調査である。当該地は池上曾根遺跡の北部に位置する。開発道路部分にトレーニングを1ヶ所設定し、掘削を行った。地表面から約30cmは耕作土が堆積する。その下は、褐色砂が約40cm、にぶい黄褐色粘土が約20cm、褐色粘土が約20cm、黒褐色粘土が40cm以上堆積する。黒褐色粘土層は、湿地状であった痕跡と思われる。

明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかったとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



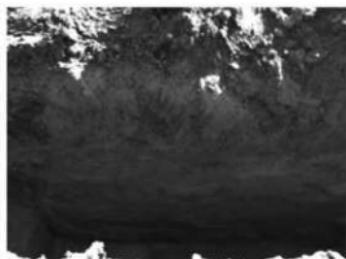
トレーニング位置図 (1:500)



土層断面図 (1:50)



全景(南から)



東壁面

5. 虫取遺跡

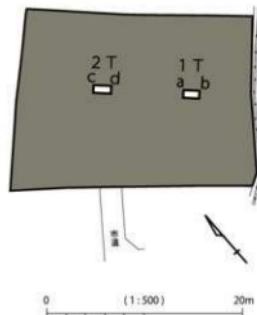
2019-05地点（我孫子二丁目226番 調査日：平成31年4月24日 調査面積：6.6m²）

宅地造成に伴う試掘確認調査である。該当地は虫取遺跡に位置する。

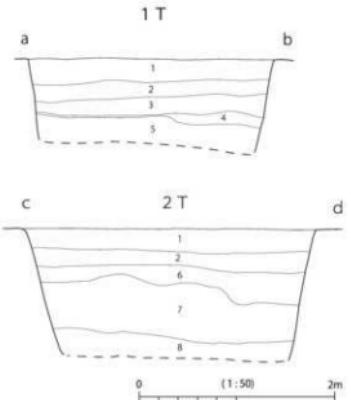
調査区は周囲よりも一段下がった畠である。トレンチを2本設定し調査を実施した。地表面から約20cmが耕作土である。その下にはオリーブ褐色土が約20cmの厚みで堆積する。第1トレンチではその下に暗オリーブ褐色砂、暗褐色砂、にぶい黄褐色砂が堆積する。鈍い黄褐色砂層からの湧水が著しく、遺構遺物も確認されないので調査を終了した。

第2トレンチは、3層目から、暗褐色土、黄褐色土、オリーブ褐色砂が堆積する。3層目の暗褐色土は西から東に向かって落ち込んでいるが明確な落ち肩はないので、自然地形によるものと考えられる。その下の層もなだらかに西から東へ下っており最下層が砂層であることや、第1トレンチが砂層であることから、旧河川の存在が考えられる。

遺物、遺構は確認されなかったことから、遺跡が確認されなかつたとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



トレンチ位置図 (1:500)



土層断面図 (1:50)



1T全景（東から）



1T南壁面



2 T 全景（東より）



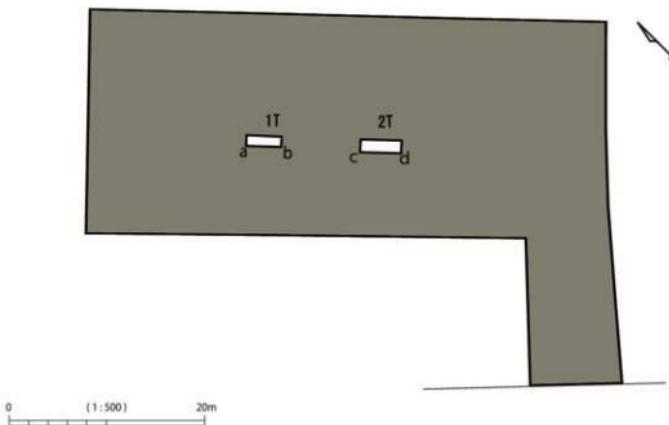
2 T 南壁面

2019-07地点（板原一丁目264番4、263番 調査日：令和元年5月27日 調査面積：8.3m²）

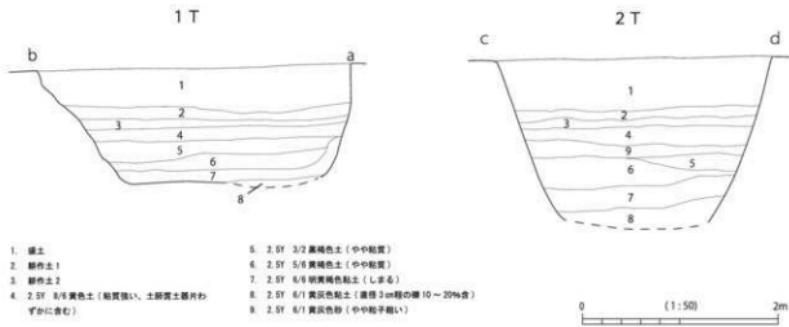
宅地造成に先立つ試掘確認調査である。当該地は虫取遺跡の南部に位置する。調査区内にトレーニチを2本設定し掘削を行った。

2本のトレーニチを概観すると、地表面から50~60cmの盛土、約5cmの耕作土が2層堆積し、その下に土師質土器細片が微量に混じる黄色土が約20cmほぼ水平に堆積する。黄色土層の下は、黒褐色土、黄褐色土、明黄褐色粘土が各々約20cmの厚みで、その下には縦混じりの黄灰色粘土層が堆積する。第1トレーニチでは黄色土層の下に黄灰色砂が10~20cmほぼ水平に堆積する。第2トレーニチでは、明黄褐色粘土が西から東に向かって30cm程落ち込んでおり流路等の肩と考えられる。

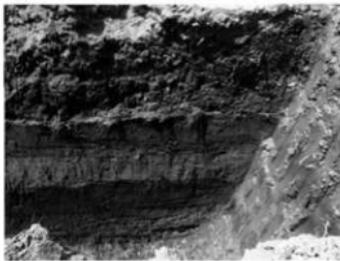
明確な遺物、遺構は確認されなかったことから、遺跡が確認されなかったとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



トレーニチ位置図（1:500）



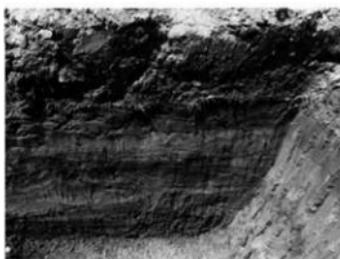
1 T 全景（西から）



1 T (南西壁)



2 T 全景（西から）



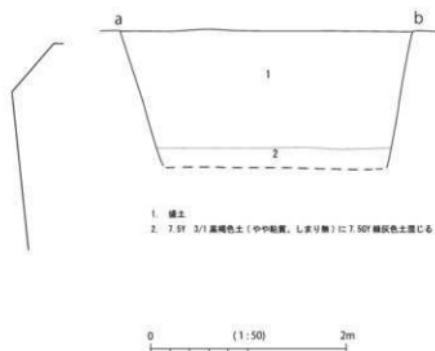
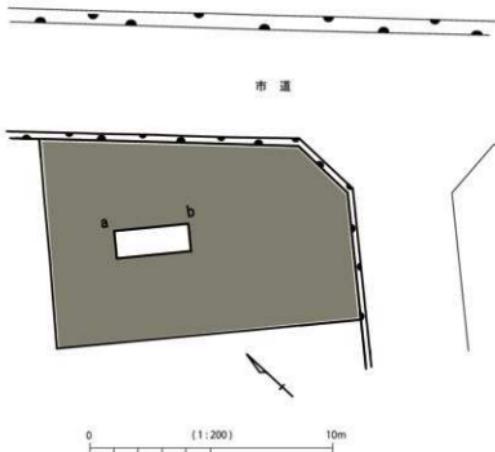
2 T (南西壁)

2019-11地点（楠町東1048番166 調査日：令和元年7月19日 調査面積：3.6m²）

個人住宅建設に先立つ試掘確認調査である。当該地は虫取遺跡の南部に位置する。トレンチを調査区の中央付近に設定し掘削を行った。

調査区の地表面は、周囲の市道から30cm高い状態。地表面から120cmが盛土、その下に黒褐色土が20cm堆積する。当該地はため池であったことから、黒褐色土は池埋立ての際の埋土と考えられる。湧水が著しく調査が続行できないため、掘削を終了した。

明確な遺構遺物は確認されなかったことから、遺跡が確認されなかったとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



トレンチ位置図 (1:200)

土層断面図 (1:50)



全景（西から）



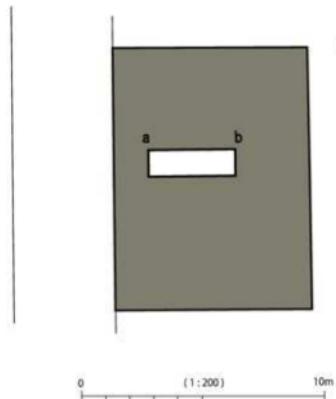
南壁面

2019-13地点（我孫子1丁目253番9、253番13 調査日：令和元年9月4日 調査面積：4.0m²）

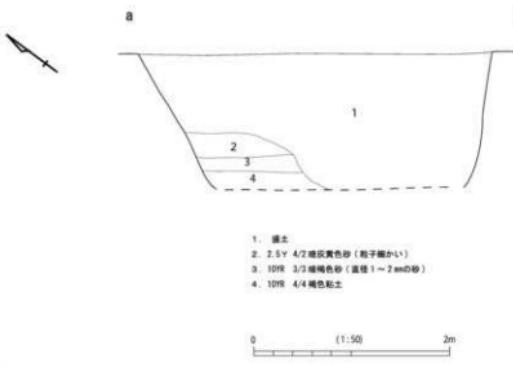
個人住宅建設に伴う試掘確認調査である。地盤改良が予定されたため、調査を行った。当該地は虫取遺跡の東部に位置する。

地表面から約80cmは盛土である。その下は、暗灰黄色砂が約30cm、暗褐色砂約20cm、褐色粘土が堆積する。暗褐色砂層は旧耕作土と考えられる。暗褐色砂層、褐色粘土層は湿地帯の痕跡と考えられる。

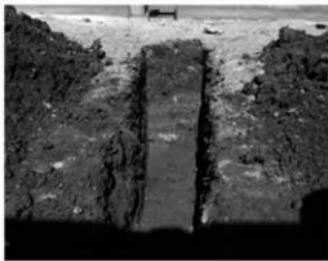
明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかつたとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



トレンチ位置図（1:200）



土層断面図（1:50）



全景（南東から）

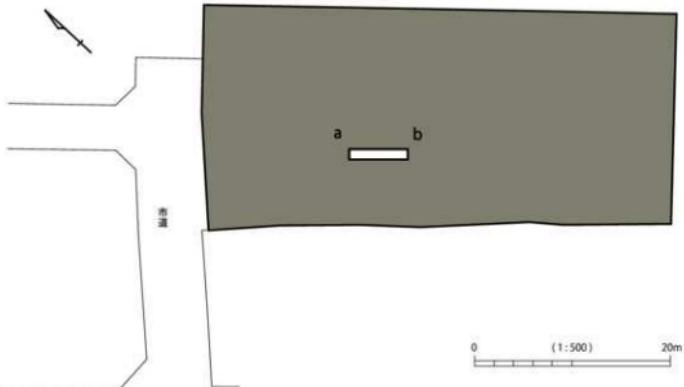


北東壁面

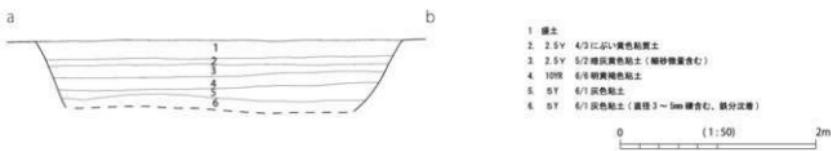
宅地造成に先立つ試掘調査である。当該地は2019-07地点の隣地にあたる。調査区内にトレンチを1本設定し掘削を行った。

地表面から約30cmの盛土、約10cmのにぶい黄色粘質土、約20cmの暗灰黄色粘土が堆積する。この層には土師質土器の細片が微量に混じる。その下は明黄褐色粘土が20cm、灰色粘土が30cm以上堆積する。

明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかつたとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



トレンチ位置図 (1:500)



土層断面図 (1:50)



全景（南西から）



北東壁面

6. 千原城跡

2019-12 地点（千原町二丁目 220 番 調査日：令和元年 8 月 20 日 調査面積：6.4 m²）



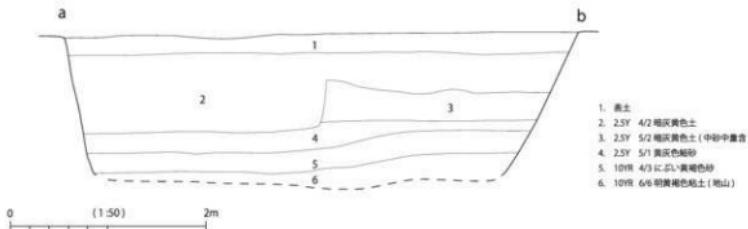
トレンチ位置図 (1 : 500)

その他建物の建設に先立つ試掘確認調査である。当該地は千原城跡に位置する。周辺は中世、玉井毫岐守行家の領地であり、当遺跡はその居館があったと伝わる地域である。調査区の中央付近にトレンチを1本設定し掘削を行った。

地表面より約20cmは表土である。表土の下は、暗灰黄色土が約40cm堆積する。その下は、やや粗い砂を含む暗灰黄色土が約30cm、黄灰細砂が約10~20cm、鈍い黄褐色砂が約20cmが堆積する。その下は地山と考えられる明黄褐色粘土が堆積する。

暗灰黄色土は以前の建物を建てる際の整地土と思われ、東側はその際にできたカクランにより削平を受けていた。カクランには近代以降の瓦や礎石等が含まれていた。暗灰黄色土、黄灰細砂、にぶい黄褐色砂は自然河川の痕跡と考えられる。

明確な遺構が確認されず遺物も出土しなかったことから、遺跡は確認されなかったとして、土層断面観察・写真撮影を行い調査を終了した。



土層断面図 (1 : 50)



全景(南東より)



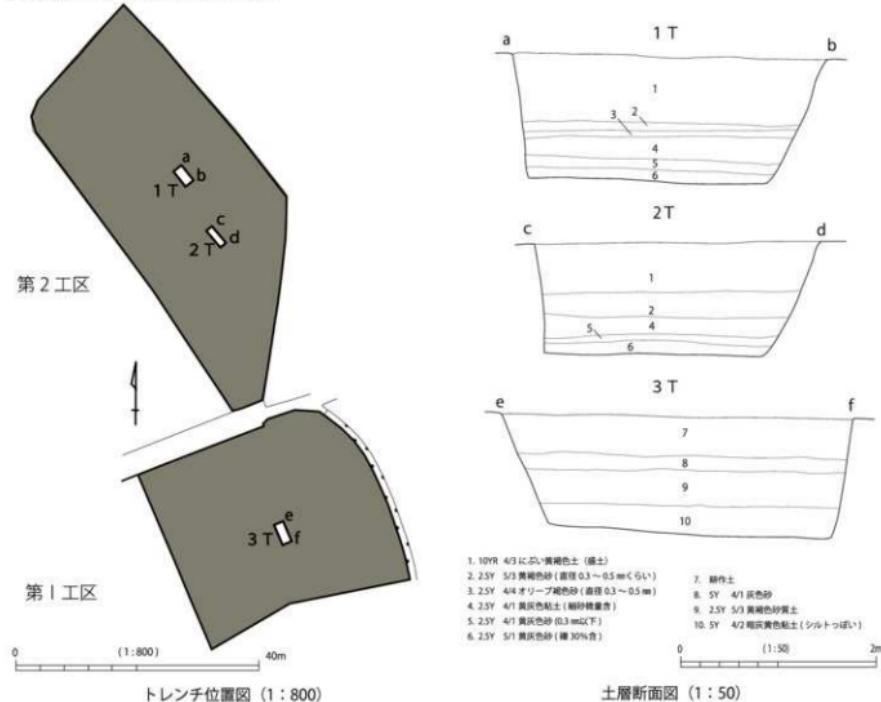
南西壁面

7. 周知の埋蔵文化財包蔵地外

本市では周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、敷地面積が1000m²を超える開発行為が計画された際に試掘確認調査を行っている。今年は6件の試掘確認調査を行った。

2019-01地点（河原町114番5、125番1 調査日：平成31年1月11日 調査面積：13.4m²）

宅地造成に先立つ試掘確認調査である。地表面から約130cm掘削を行った。開発予定が2区画に亘り、第1工区に1本。第2工区に2本のトレンチを設定した。第1、2トレンチの地表面から50~70cmは盛土である。その下は砂層、黄灰色粘土層がほぼ水平に堆積する。第3トレンチは、地表面から40cm程度は耕作土が残る。その直下から砂層が堆積する。当該地は大津川のそばにあり、過去には川底であった地域と推測される。遺物・遺構は確認できないことから、遺跡が確認されなかつたとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



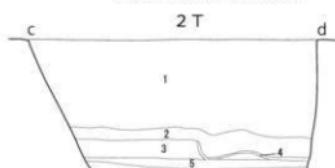
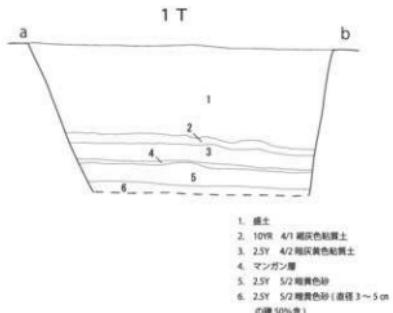
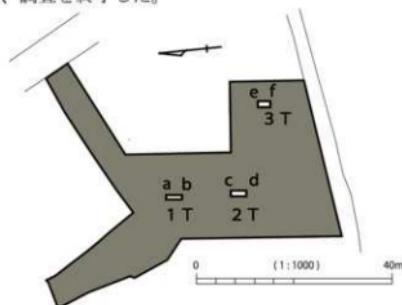
2T 全景（西から）



3T 全景（西から）

集合住宅建設に先立つ試掘確認調査である。調査区に3本のトレンチを設定し、調査を実施した。3本のトレンチを概観すると、地表面から約90cmは盛土である。その下の20~30cm程度は粘質土である。さらに下層は暗黄色砂が堆積する。これらは、ほぼ水平に堆積しており自然堆積と推測される。

遺物・遺構は確認できることから、遺跡が確認されなかったとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



土層断面図 (1:50)



1T 東壁面



1T 全景 (北から)



2T 東壁面



2T 全景 (北から)



3T 全景(北から)

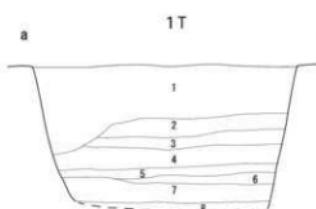
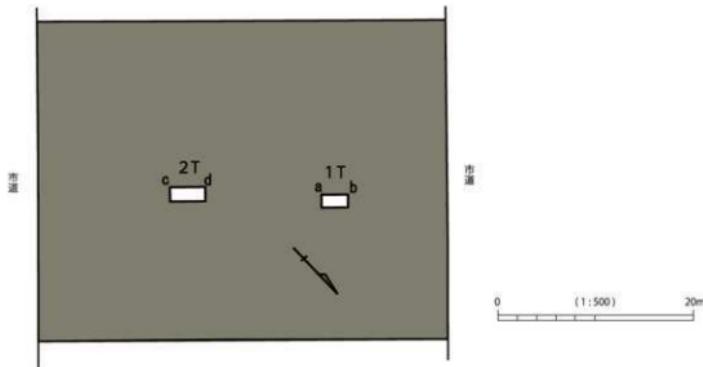


3T 東壁面

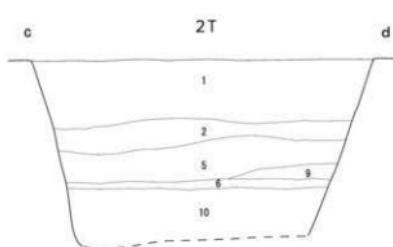
2019-03地点(東雲町200番1 調査日：平成31年2月7日 調査面積：9.3m²)

宅地造成に先立つ試掘確認調査である。調査区内に2本のトレンチを設定し、調査を実施した。2本のトレンチを概観する。地表面から60~70cmは盛土である。その下は粘質土と砂層がほぼ交互に水平に堆積している。

遺物・遺構は確認できないことから、遺跡が確認されなかったとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



- 1. 盛土
- 2. 盛土
- 3. 10YR 4/2 黄褐色土
- 4. 2.5Y 4/2 黄褐色砂質土
- 5. 2.5Y 2/2 黑褐色粘質土(有機物多い)
- 6. 2.5Y 4/1 黑褐色砂
- 7. 10YR 4/2 黄褐色土
- 8. 2.5Y 4/2 黑褐色砂質土
- 9. 2.5Y 5/2 黑褐色細砂
- 10. 10Y 5/1 黑色粘土



土層断面図 (1:50)



1T 全景(西から)



1T 南壁面



2T 全景(西から)



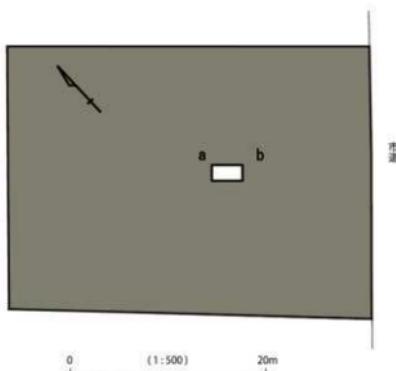
2T 南壁面

2019-04地点(北豊中町一丁目570番1 調査日：平成31年2月26日 調査面積：4.7m²)

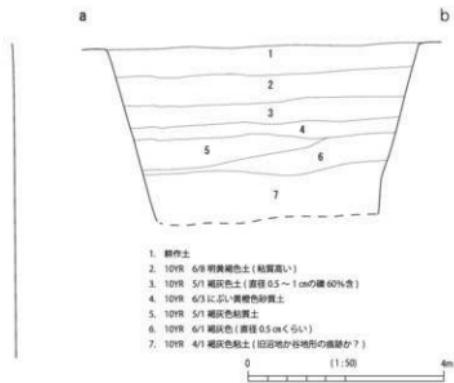
宅地造成に先立つ試掘確認調査である。調査区内にトレンチを設定し調査を実施した。地表面から約30cmは耕作土である。その下層に明黄褐色土、褐色土、にぶい黄橙色砂質土等が順に水平堆積している。7層の褐色粘土は、50cm以上の層があることを確認できた。

当該地は、北に池上曾根遺跡、南に七ノ坪遺跡に挟まれた地域であり、谷地形が埋没して形成された地域であると考えられる。

遺物・遺構は確認できないことから、遺跡が確認されなかったとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



トレンチ位置図 (1:500)



土層断面図 (1:50)



全景(西から)



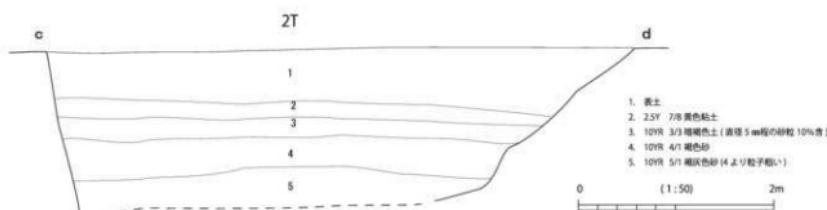
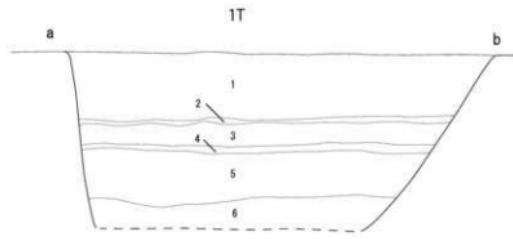
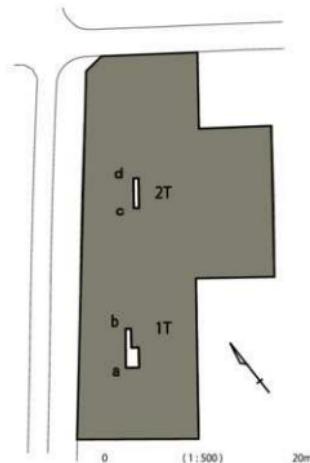
北壁面

2019-06地点(東雲町243番1、244番1の一部、244番3、249番4、249番5、249番6)

調査日：令和元年5月17日 調査面積：19.6m²

共同住宅建設に先立つ試掘確認調査である。トレーニングを南北方向に2ヶ所設定し、地表面から約180cmの掘削を行った。第1トレーニングは表土から約40cmの盛土、約5cmの整地土層、その下に旧表土と考えられる黄褐色粘土層が約30cm確認された。その下はオリーブ褐色粘土が40~50cm、灰オリーブ色粘土が30cm以上堆積する。灰オリーブ色粘土層は湿地帯の痕跡であったと考えられる。なお第1トレーニングの南側部分は地盤改良を受けており掘削が不可能であった。第2トレーニングでは旧表土の下は、砂混じりの暗褐色土、褐色砂が水平に堆積する。

遺物・遺構は確認できないことから、遺跡が確認されなかったとして土層断面観察・写真撮影を行い、調査を終了した。



土層断面図 (1:50)



1T 全景（南から）



1T 西壁面



2T 全景（南から）



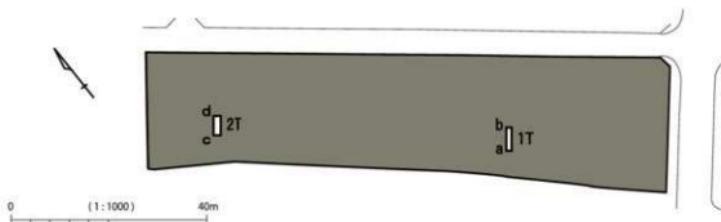
2T 西壁面

2019-17地点(東雲町1番1、2番1、3番1、4番1、5番、6番1

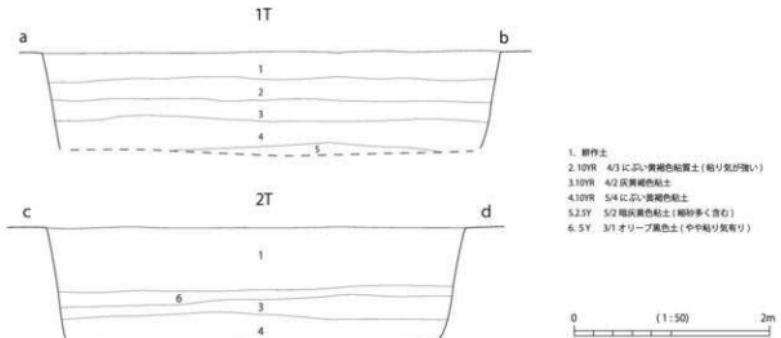
調査日：令和元年12月2日 調査面積：11.7m²)

宅地造成に先立つ試掘確認調査である。トレンチを開発道路部分に2ヶ所設定し掘削を行った。第1トレンチは表土から約30cmの耕作土が堆積する。その下はにぶい黄褐色粘質土が約30cm、灰黄褐色粘土が20~30cm、にぶい黄褐色粘土が30~40cm、暗灰黄色粘土が5cm以上堆積する。第2トレンチは表土から盛土が約60cm堆積する。その下はオリーブ黒色土が5~10cm、灰黄色褐色粘土が10~20cm、にぶい黄褐色粘土が30cm以上堆積する。両トレンチ共に水平堆積であり、にぶい黄褐色粘土より下は地山である。

遺構・遺物が確認されなかったため、開発可能とし調査を終了した。



トレンチ位置図 (1:1000)



土層断面図 (1:50)



1T 全景 (北東から)



1T 北西壁面



2T 全景 (北東から)



2T 北西壁面

第3章 立会調査結果

1. 虫取遺跡

虫取町二丁目1419番～1461番地内 調査日：令和元年9月30日

下水道管敷設に伴う立会調査である。地表面から約30cmは近年のアスファルト、砂利、盛土が堆積する。その下に黄灰色粘質土、灰色砂礫土、黄橙色粘土層が堆積し、これらの層はほぼ水平に堆積する。遺構及び遺物は確認されなかったため開発可能とし、調査を終了した。

遺物観察表

2019-09 地点 池上曾根遺跡

番号	器種	出土地点	法量(cm)		胎土	色調	調整	備考
			口径	器高				
1	須恵器蓋	包含層 (復)12.5 (残)2.8	密 (直径1mmの長石含)	内面 灰色 外面 灰色	内面 回転ナデ 外面 回転ヘラ削り			長方形透かしが1ヶ所残る
2	須恵器高杯	包含層 -	(残)2.4	密 (直径1mmの長石含)	内面 灰色 外面 灰色	内面 回転ナデ 外面 回転ヘラ削り、回転ナデ		
3	土師器皿	井戸 (復)0.6	1.7	密	内面 淡黄褐色 外面 淡黄褐色	内面 横ナデ 外面 横ナデ、指揮サエ後ナデ		
4	土師器皿	井戸 (復)11.0	(残)1.7	密	内面 淡黄褐色 外面 淡黄褐色	内面 横ナデ 外面 横ナデ、ナデ		
5	土師質火舎 又は香炉	井戸 -	(残)2.4	密	内面 棕色 外面 棕色	内面 回転ナデ 外面 回転ヘラ削り		脚が付いていた 底部有り
6	土師質炮烙	井戸 (復)20.4	(残)5.2	密	内面 棕色 外面 棕色	内面 横ナデ 外面 横ナデ		外面に煤付有

2019-10 地点 豊中遺跡

番号	器種	出土地点	法量(cm)		胎土	色調	調整	備考
			口径	底径				
1	須恵器蓋	2区包含層 (復)12.0 (残)2.1	密		内面 灰色 外面 灰色	内面 回転ナデ 外面 回転ナデ		
2	須恵器蓋	1区上層 -	(残)1.9	密 (直径1mmの長石含)	内面 皮白色 外面 灰色	内面 回転ナデ 外面 回転ヘラ削り、回転ナデ		
3	土師器高杯	2区T溝 -	(残)4.7	密 (直径1mmの長石、直径3~6mmの礫含)	内面 純い黄褐色 外面 純い黄褐色	内面 ナデ、指オサエ 外面 ヘラ磨キ		円形透かしが1つ 残る。3ヶ所が4ヶ所 の透かしか。脚部基 部内面に絞り痕
4	土師質土錐	2区包含層 -	3.4	密	棕色	指オサエ後ナデ		
5	土師器瓶形高杯	2区包含層 (復)17.0 (残)3.6	密 (直径1mmの長石含)	内面 皮白色 外面 皮白色	内面 ハケメ、横ナデ 外面 ハケメ、横ナデ 内面は摩滅が著しい			外面に黒斑
6	土師器甕	2区溝 3.1 (残)3.4	密 (直径1mmの長石、石英 含)	内面 皮白色 外面 淡黄褐色	内面 板ナデか。 外面 (体部)タキがわずかに残る (底部)ナデ内外面共に摩滅が著しい			体部に煤付有

附編

豊中遺跡における古墳時代前期の住居の分布について

岸本 和美

豊中遺跡は本市東部に位置し、南北約1km、東西約500mに広がり、遺跡の東部は和泉市に及ぶ。調査の歴史は昭和30年代に泉大津高校地歴部が弥生時代から鎌倉時代までの各時代の土器、瓦等を発見したことから始まる。

豊中遺跡は、昭和50年までは、豊中遺跡、古池北遺跡、古池遺跡、要池遺跡と4つの遺跡に分かれて認識されていた。

古池北遺跡は、現在の国道26号第二阪和国道(以下国道26号と略す)の阪和豊中交差点より南に約150m付近である。昭和48年に国道26号建設予定地内で、大阪府教育委員会による発掘調査が実施され、堅穴住居、溝などが確認された。

古池遺跡は、現在のカナートモール付近である。ため池であった古池を埋め立て、店舗建設が計画された。工事に先立ち池の水を抜いたところ、池の底から須恵器片が散布しているのが見つかった。これにより昭和47・48年に大阪府教育委員会が池の底の発掘調査を行ったところ、古墳時代の遺構、遺物が見つかった。また昭和48年から50年にかけて、ため池である上池を埋め立てる際に池の底を確認したところ、自然河川と複数の時代にわたる遺物が見つかった。遺物は、縄文土器の破片、土師器、須恵器、古墳時代の木剣、木刀、平安時代の下駄等である。

要池遺跡は、現在の要池団地付近である。昭和49年に国道26号建設予定地内で、大阪府教育委員会による発掘調査が実施され、中世の掘立柱建物、溝などが確認された。国道26号より西部分でも試掘確認調査は行われたが、成果はなかったため遺跡外となっている。

豊中遺跡は、豊中町二丁目付近である。本市による土地地区画整理事業が計画されたため、発掘調査が実施されることになった。調査のために「豊中・古池遺跡調査会」が設立され、昭和48年から50年にかけて範囲確認調査と発掘調査が実施された。

これらの調査の結果、豊中遺跡、古池北遺跡、古池遺跡、要遺跡は古墳時代を中心とする一連の集落遺跡であると考えられたことから、合わせて「豊中遺跡」という1つの遺跡に変更された。

昭和50年代以降は、民間開発に伴う緊急発掘調査が幾度も実施してきた。遺跡のほぼ中心部で、堅穴住居が複数見つかっている範囲がある(図1・2参照)。これらの堅穴住居は明確な時期差はなく、出土遺物から全て古墳時代前半に属する。堅穴住居は大きく2つのエリア(エリアA・B)に分かれて存在するようである。

エリアAの堅穴住居は、平面プランが全て方形である。1辺が6m以上の大きな堅穴住居と1辺が4~5mの中規模の堅穴住居が存在する。大きな規模の堅穴住居からはベッド状遺構が確認されている(図3参照)。

エリアBはエリアAの南約60mにある。エリアBの堅穴住居は方形が5棟、円形が1棟である。方形の堅穴住居は最も大きなもので1辺が4.3mで、その他は4m未満であり、いずれもエリアAの堅穴住居よりも規模が小さい。円形の堅穴住居は最大径が3.6mで、方形の堅穴住居よりも更に小さい(図3参照)。两者に明確な時期差はなく、円形の堅穴住居は方形の堅穴住居とは別の目的で使用された可能性がある(1988『報告16 球大津市埋蔵文化財発掘調査概要6』)。

エリアAとBの間には掘立柱建物が存在するエリアが確認されている(T0-34)。またT0-31、2004-05で掘立柱建物の可能性がある規則的に並ぶピットが確認されている。

以上より古墳時代前期の豊中遺跡では、堅穴住居が固まって存在するエリアがあり、エリアにより建物の規模に違いがあることがわかった。これら堅穴住居が確認された範囲の東側および西側は、自然河川が存在したことが確認されており、水辺に近いが、安定した地盤の地域に人々が暮らしていたと考えられる。

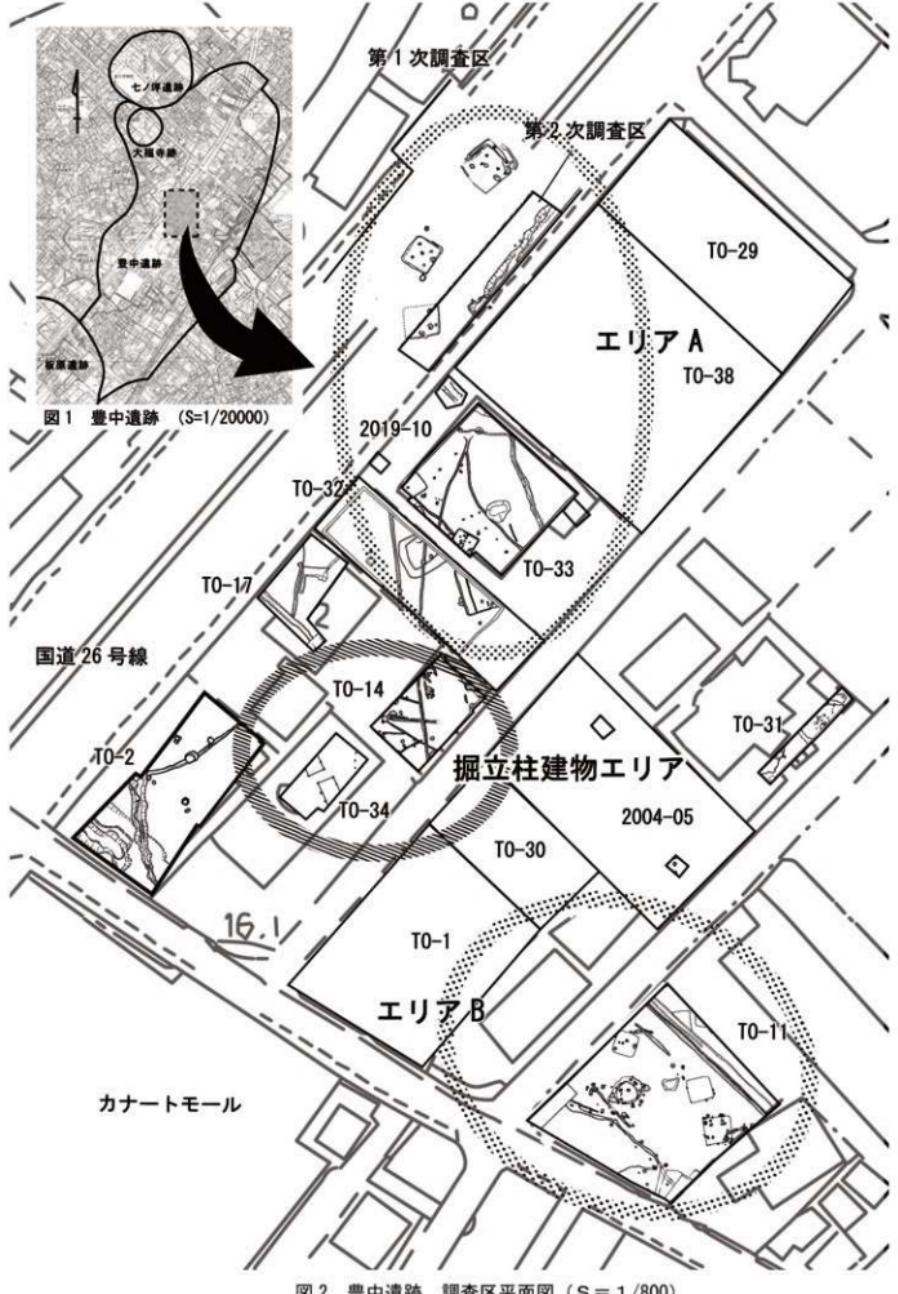
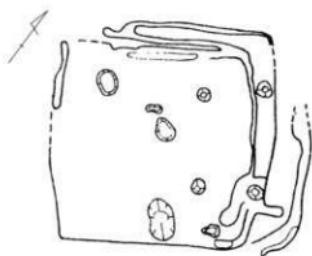
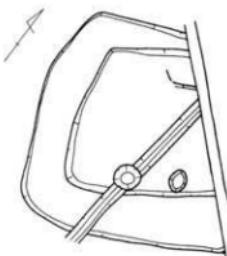


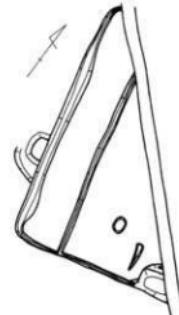
図2 豊中遺跡 調査区平面図 ($S = 1/800$)



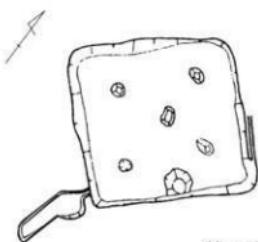
第1次-1号



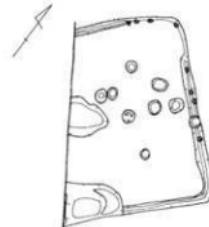
To-32-2号



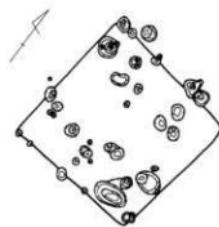
To-32-1号



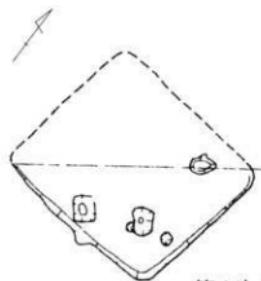
第1次-2号



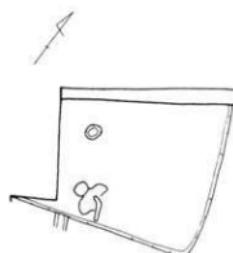
To-33-1号



To-11-3号



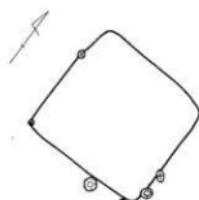
第1次-3号



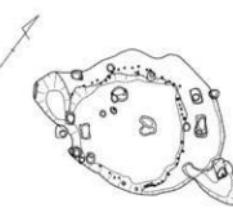
To-33-2号



To-11-1



To-11-2号



To-11円形

図3 豊中遺跡 積穴住居一覧 (S = 1/150)

表1 豊中遺跡調査一覧

調査番号	調査年	調査日	所在地	主な時代と遺構	備考	報告書/発行年/登録情報
O 古北北遺跡 1次調査	1973	1973.1~ 1974.4	第2版和田遺跡予定地	古墳聖穴住居2・土壙層・不明ビット		大津道路・古北北遺跡発掘調査概要 / 石井市西取石、奈良市市集中 所に~1973.3/大阪府教育委員会
O 古北北遺跡 2次調査	1978	1~3月	第2版和田遺跡予定地	古墳聖穴住居1・溝・土壙層・不明 ビット		
				バードストリートが埋められた聖穴住居1・溝のみ。出土遺物から古墳時代後半。		
古北遺跡 A地区			第2版和田遺跡予定地	溝3		大阪府埋蔵文化財発掘調査概要1974-6 奈良遺跡発掘調査概要! ~東大阪市集中所に~1975/大阪府教育委員会
古北遺跡 B地区	1974	1974.7.22~ 1975.3.31	第2版和田遺跡予定地	溝3		大阪府埋蔵文化財発掘調査概要1974-6 奈良遺跡発掘調査概要! ~東大阪市集中所に~1975/大阪府教育委員会
古北遺跡 C地区			第2版和田遺跡予定地	中世立柱建物3・土壙		大阪府埋蔵文化財発掘調査概要1974-6 奈良遺跡発掘調査概要! ~東大阪市集中所に~1975/大阪府教育委員会
豊中・古池遺跡 西遊跡調査区	1973					豊中・古池遺跡 発掘調査概要/その1/1973/豊中・古池遺跡調査会
豊中・古池遺跡 T08	1974		区画整理予定地	古墳聖穴住居2・羽川戸・芦戸1		豊中・古池遺跡 発掘調査報告その1/1973/豊中・古池遺跡調査会
豊中・古池遺跡 T00	1974		区画整理予定地	中世糞戸?		豊中・古池遺跡 発掘調査報告その2/1973/豊中・古池遺跡調査会
豊中・古池遺跡 上池	1974		区画整理予定地	自然凹地		豊中・古池遺跡 発掘調査報告その3/1973/豊中・古池遺跡調査会
T-01	1976	1~4月	豊中95-1	古墳聖穴住居3・古墳構		
O T-02	1976	5.26~7.7	豊中95-1	古墳聖穴住居6・不明溝・不明柱穴	概要3 豊中遺跡分部調査概要II/1973/奈良市市教育委員会	
				古墳時代中期の集落を確認。南北方向に走る溝は幅約7mある。東西方向に走る溝は幅約4mでタキドリを施す土器群が出土している。いずれも豪華仕様へ続く。	概要3 豊中遺跡分部調査概要II/1973/奈良市市教育委員会	
T-03	1976	7.13~7.28	豊中95-4	古墳聖穴住居1・中世糞戸4	概要3 豊中遺跡分部調査概要II/1973/奈良市市教育委員会	
T-04	1976	7.21	豊中98-7	中世糞戸3・不明溝・不明柱穴	第3地点 概要3 豊中遺跡分部調査概要II/1973/奈良市市教育委員会	
T-05	1976	7.13~8.28	豊中98-8	不明柱穴2・不明溝2・不明柱穴	第4地点 概要3 豊中遺跡分部調査概要II/1973/奈良市市教育委員会	
T-06	1976	10.27~11.30	豊中99-1	不明柱穴2・不明溝2・不明柱穴	概要3 豊中遺跡分部調査概要II/1973/奈良市市教育委員会	
T-07	1976	12月	豊中95-5, 856	中世糞戸3・不明柱穴	第5地点 概要3 豊中遺跡分部調査概要II/1973/奈良市市教育委員会	
T-08	1977		豊中445-1, 446-1, 450	中世糞戸2・中世糞・中世糞穴	第6地点 概要4 豊中遺跡分部調査概要III/1973/奈良市市教育委員会	
T-09	1977		豊中95-4	中世糞戸2・不明柱穴	概要4 豊中遺跡分部調査概要III/1973/奈良市市教育委員会	
T-10-1	1977		豊中250-3	溝3・古墳聖穴住居1・ビット・溝 のみ	概要5 豊中遺跡分部調査概要IV/1983/奈良市市教育委員会	
T-10-2	1977			溝1・迷い込み	概要5 豊中遺跡分部調査概要IV/1983/奈良市市教育委員会	
O T-11	1978	12.1~4.24	豊中94-1	古墳聖穴住居6・溝2・不明柱穴・ 古墳聖穴20	概要5 豊中遺跡分部調査概要IV/1983/奈良市市教育委員会	
				古墳時代前半の聖穴住居・溝・河岸段丘。平行5m、円形3mである。住居の形式による特徴はない。円形住居は柱位置より窓位置がわざわざ離れていたり、柱位置より窓位置が離れていたりする。布留型・垂窓・小型企业壁面が出土した。聖穴住居を切る溝は、出土遺物などから中世と考えられる。		
T-12	1978	5.11~7.5	湖底51-2, 湖底51-3	不明立柱建物2・不明柱	概要6 古池遺跡分部調査概要I/1981.3/奈良市市教育委員会	
T-13	1978					
O T-14	1979	7.18~8.18	豊中99-4	古墳聖穴住居1・不明溝・不明柱穴	概要6 古池遺跡分部調査概要I/1981.3/奈良市市教育委員会	
				古墳時代後半の居住区段へ続くたる全長約40mの居住やプランは不明であるが、土器器類、僅口器の器が出土しており、古墳時代前半と考えられる。		
T-15	1978	9.11~10.14	池原514-1	不明溝・不明柱穴・不明柱穴	報告8 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/(豊中遺跡分部調査概要 Ⅴ)/奈良市市教育委員会	
T-16	1978	11.14~12.28	豊中95-4	中世糞戸2・中世糞1・不明柱穴・ 不明柱穴	報告8 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/(豊中遺跡分部調査概要 V)/奈良市市教育委員会	
O T-17	1979	3.16~4.4	豊中95-4	不明柱	報告5 豊中遺跡分部調査概要IV/1983/奈良市市教育委員会	
				築込みからはタキドリを施した土器器片、土器器蓋が出土しており、古墳時代と考えられる。		
T-18	1979	6.12~7.5	豊中97-11	古墳聖穴立柱建物1・古墳構・不明 柱穴・不明柱	報告8 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/(豊中遺跡分部調査概 要V)/奈良市市教育委員会	
T-19	1979	9.5~9.18	豊中96-17			
T-20	1979	10.3	豊中96-4			
T-21	1979	12.17~1980	豊中95-2	中世糞5・不明柱穴・不明柱穴5	報告8 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/(豊中遺跡分部調査概 要V)/奈良市市教育委員会	
T-22	1980	3.11~3.19	豊中95-9			
T-23	1980	4.16~4.22	豊中604, 606			
T-24	1980	4.22~4.13	豊中616			
T-25	1980	6.30~7.22	豊中95-3	古墳構2	試験調査番号 80-08.	
T-26	1981	6.02~04	北豊中17丁618-1			
T-27	1981	7.13~7.29	豊中97-9			
T-28	1983	1.31~2.16	北豊中町1丁979-8			
T-29	1984	3.21~4.3	東豊中町2丁959-8		試験調査番号 8402	
O T-30	1984	8.3~8.25	東豊中町2丁963-5	古墳聖穴住居		
O T-31	1984	8.25~9.3	東豊中町2丁963-3	第1地点	報告10 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/奈良市市教育委員会	
				南北・東西方向と東西南北方向の溝が確認された。いずれの溝も南北に走る。一部は築立柱建物になる可能性がある。		
O T-32	1987	1.21~2.22	東豊中町2丁959-5	古墳聖穴住居2・中世糞戸1・不明 柱2・不明柱	報告10 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/奈良市市教育委員会	
				豊中地区は2層とも調査区段に近く、うち1層はラブダ形式構造確認。土器式土器が出土して おり、古墳時代前半と考えられる。2層のものは、ほぼ並んで北東に向かって調査区段に転 換する所に考慮される。		
O T-33	1987	11.10~12.23	東豊中町2丁959	古墳聖穴住居3・不明立柱建物	報告16 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/奈良市市教育委員会	
				豊中地区は2層とも調査区段に近く、うち1層からまだ状況複雑となる。出土遺物より古墳 時代前半と考えられる。		
BB-03	1988	4.6	豊中町1丁88-1, -2		報告16 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/奈良市市教育委員会	
BB-03	1988	4.6	豊中町1丁89-1, -2, -11, -12		報告16 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1983.3/奈良市市教育委員会	
O T-34	1989	4.18~5.6	豊中町2丁959-3	不明立柱建物2・不明柱	報告20 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1993/奈良市市教育委員会	
				豊中町2丁959-3も調査区段に広がり、東西・南北2方向に走る溝が出土する。出土 遺物より古墳時代と考えられる。		
BB-12	1989		東豊中町2丁961-3		報告20 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1993/奈良市市教育委員会	
O T-35	1987			第2地点	報告20 奈良市埋蔵文化財発掘調査概要I/1993/奈良市市教育委員会	

調査番号	調査年	調査日	所在地	主な時代と遺構	備考	報告書/令件名/付記欄
90-07	1990		東中955-2			報告21 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/1991/3/鳥津市教育委員会
90-09	1990		東中町1丁目303-3, 83-5			報告22 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/1991/3/鳥津市教育委員会
90-15	1990		東中町1丁目303-1, 886-6			報告23 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/1991/3/鳥津市教育委員会
90-24	1990		北暮中町3-7 876-9			報告24 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/1991/3/鳥津市教育委員会
91-01	1991		東暮中町2丁目80-1の一部			報告25 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/1991/3/鳥津市教育委員会
91-02	1991		北暮中町3丁目76-9			報告26 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
91-03	1991		北暮中町2丁目86-14			報告27 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
10-35	1991	34-37	東中445-1, 446-1, 447-3, 450-1	不規則穴		報告28 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
91-04	1991		東中445-1, 446-1, 447-3, 450-1			報告29 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
91-07	1991		東中956-6			報告30 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
91-08	1991		東中454-1			報告31 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
91-09	1991		北暮中町3丁目877-6の一部			報告32 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
91-11	1991		後跡 550-1, 865-5?			報告33 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
91-16	1991		東中956-8			報告34 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-01	1992		東中町1丁目101-6, -7			報告35 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-02	1992		北暮中町2丁目89-6			報告36 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-12	1992		東中440-1			報告37 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-17	1992		東中431-11の一部			報告38 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-24	1992		東中955-6			報告39 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-25	1992		東中444-1の一部			報告40 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-26	1992		北暮中町2丁目996-18の一部			報告41 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
92-29	1992		東中956-3			報告42 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
93-03	1993		東中558-76の一部			報告43 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
93-05	1993		東中町1丁目323-14			報告44 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
93-09	1993		東中2丁目89-1			報告45 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
93-16	1993		北暮中町2丁目89-4の一部			報告46 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
94-01	1994		北暮中町2丁目460-1の一部, 463-1			報告47 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
94-03	1994		北暮中町3丁目75-18			報告48 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
94-07	1994		北暮中町3丁目75-18			報告49 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1992/3/鳥津市教育委員会
10-36	1991	415-7~4.7	東中447-3, 445-, 446-, 450-1	中世壁立柱建物4・中世井戸3 中世土塁5・中世廐2	壁面なし	壁面27 曽中跡付御調査報告書/1993/3/鳥津市教育委員会
10-37	1991	115-1126	東中451-1, 452, 453, 454, 457-1	中世壁立柱建物1・中世土塁1		壁面27 曽中跡付御調査報告書/1993/3/鳥津市教育委員会
TG-36	1991	12/8~10/20 1992.1.10	東中町2丁目957-7		壁面なし	壁面27 曽中跡付御調査報告書/1993/3/鳥津市教育委員会
TG-39	1994	7.12~7.14	東中953-13	ピット2		報告25 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1993/3/鳥津市教育委員会
94-15	1994		東中町450-1の一部			報告26 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1993/3/鳥津市教育委員会
94-16	1994		東中2丁目89-1の一部			報告27 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1993/3/鳥津市教育委員会
95-04	1995		北暮中町2丁目95-1の一部			報告28 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1995/3/鳥津市教育委員会
95-09	1995		東中2丁目295-9			報告29 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1995/3/鳥津市教育委員会
95-06	1995		北暮中町2丁目295-3			報告30 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1995/3/鳥津市教育委員会
95-10	1995		東中2丁目294-1, 295-1, -3			報告31 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1995/3/鳥津市教育委員会
96-03	1996		東暮中町2丁目294-7			報告32 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1996/3/鳥津市教育委員会
96-06	1996		北暮中町2丁目75-4			報告33 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1996/3/鳥津市教育委員会
97-07	1997		東暮中町2丁目75-1の一部			報告34 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1997/3/鳥津市教育委員会
97-11	1997		東暮中町2丁目81-5, -12			報告35 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1998/3/鳥津市教育委員会
TG-40	1996	2.26~3.7	東暮中町2丁目964-7		壁面調査番号 96-03	報告36 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/10/1998/3/鳥津市教育委員会
2002-05	2002		曾中2丁目405-10の一部, 407-3 411-241-2, 251-2, 墓道敷			報告25 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2002/3/鳥津市教育委員会
2002-07	2002		東暮中町2丁目1-26			報告26 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2002/3/鳥津市教育委員会
2002-10	2002		東中町3丁目4-1			報告27 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2002/3/鳥津市教育委員会
2003-03	2003		東中町2丁目95-4, 96-2~5			報告28 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2003/3/鳥津市教育委員会
2003-07	2003		東中町2丁目1-2, 25-1			報告29 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2003/3/鳥津市教育委員会
2003-14	2003		東暮中町1丁目37-1の一部			報告30 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2003/3/鳥津市教育委員会
2004-02	2004		東暮中町1丁目66-1			報告31 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2004/3/鳥津市教育委員会
O 2004-05	2004		東暮中町2丁目965-6	不規則穴3		報告32 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2005/3/鳥津市教育委員会
O			周辺に点状に見出, 古墳から中世の所六か所。			報告33 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2005/3/鳥津市教育委員会
2004-06	2004		北暮中町3-1			報告27 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2005/3/鳥津市教育委員会
2004-07	2004		東暮中町2丁目96-10			報告28 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2005/3/鳥津市教育委員会
2005-02	2005		北暮中町2丁目96-5の一部			報告29 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2005/3/鳥津市教育委員会
2005-19	2005		東中町1丁目87-10			報告30 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2005/3/鳥津市教育委員会
2006-01	2006		北暮中町2丁目982-20の一部			報告31 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2006/3/鳥津市教育委員会
2006-06	2006		東暮中町2丁目964-18			報告32 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2006/3/鳥津市教育委員会
2006-08	2006		北暮中町2丁目14-6			報告33 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2006/3/鳥津市教育委員会
2006-11	2006		北暮中町2丁目8内			報告34 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2006/3/鳥津市教育委員会
2007-02	2007		北暮中町2丁目899-5, 900-6			報告35 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2007/3/鳥津市教育委員会
2007-10	2007		北暮中町2丁目876-7, 876-8の一部			報告36 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2008/3/鳥津市教育委員会
2007-12	2007		東中町2丁目82内			報告37 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2008/3/鳥津市教育委員会
2008-01	2008		北暮中町2丁目988-1の一部			報告38 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2008/3/鳥津市教育委員会
2008-07	2008		東暮中町3丁目18-1, 和泉山古墳群17丁目139-1			報告39 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2009/3/鳥津市教育委員会
2008-08	2008		北暮中町2丁目89-10の一部			報告40 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2009/3/鳥津市教育委員会
2009-13	2009		東暮中町2丁目89-19			報告41 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2010/3/鳥津市教育委員会
2009-14	2009		東中町2丁目96-1の一部			報告42 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2010/3/鳥津市教育委員会
2010-01	2010		東中町2丁目115-11, 115-29			報告43 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2011/3/鳥津市教育委員会
2010-12	2010		東暮中町2丁目972-40の一部			報告44 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2012/3/鳥津市教育委員会
2010-16	2010		東暮中町2丁目984-3			報告45 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2013/3/鳥津市教育委員会
2010-20	2010		北暮中町2丁目89-3			報告46 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2014/3/鳥津市教育委員会
2010-27	2010		東中町2丁目850-1, 856			報告47 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2015/3/鳥津市教育委員会
2010-29	2010		東中町2丁目866-64			報告48 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2016/3/鳥津市教育委員会
2010-36	2010		東中町2丁目359-6	廣		報告49 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2017/3/鳥津市教育委員会
O 2019-10	2019		東中町2丁目359-6		1D-33と同じ地点	報告50 鳥津市埋蔵文化財発掘調査報告書/2020/3/鳥津市教育委員会

* ○印は図1に掲載

* 調査番号が調査年から始まるものは試掘確認調査である

発掘調査概報抄録

ふりがな 書名	izu-mi-oo-otsu-shima-i-zo-u-bun-kazai-ha-tuk-tsu-chou-sa-ka-i-hou-san-ji-yu-ku-yu 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報39
副書名	
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	54
編著者名	奥野 美和 岸本 和美
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号
発行年月日	西暦 2020年 3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 度分秒	調査期間	調査対象面積 (m ²)	調査原因	
あなどいせき 穴道遺跡	泉大津市大坂府泉大津市 あおごし ほんばい あなだいほんばい 我孫子31番1、穴田23番1	272060		34度 29分 31秒	135度 25分 05秒	20190925	290.5	個人住宅建設に 伴う事前調査
いわなないせき 池浦遺跡	泉大津市大坂府泉大津市 いわなないほんばい 下条町168番36	272060		34度 30分 01秒	135度 24分 46秒	20191011	64.2	個人住宅建設に 伴う事前調査
とよなないせき 豊中遺跡	泉大津市大坂府泉大津市 とよなかいほんばい 豊中町一丁目59番6	272060		34度 18分 54秒	135度 25分 28秒	20190711,12	902.4	店舗建設に伴う 事前調査
いけのれき 池上曾根遺跡	泉大津市大坂府泉大津市 いのねり 森町一丁目104番1の一部	272060		34度 30秒 38秒	135度 25分 32秒	20190604	439.6	宅地造成に伴う 事前調査
森町二丁目132番1、132番 2、132番12の一部、132番16 の一部、132番17	272060			34度 30秒 29秒	135度 25分 33秒	20190612	1,148.5	宅地造成に伴う 事前調査
森町二丁目163番1、163番 4、163番5、163番6	272060			34度 30秒 32分	135度 25分 29秒	20191213	525.2	共同住宅建設に 伴う事前調査
森町一丁目266番1、267番1	272060			34度 30秒 34分	135度 25分 37秒	20191216	1,797.2	分譲住宅建設に 伴う事前調査
森町一丁目100番3の一部	272060			34度 30秒 35秒	135度 35秒 34分	20191216	916.5	分譲住宅建設に 伴う事前調査
我孫子二丁目226番	272060			34度 28分 37秒	135度 24分 41秒	20190424	1,165.6	宅地造成に伴う 事前調査
板原町一丁目260番4、263番	272060			34度 28分 27秒	135度 24分 32秒	20190527	1,463.5	宅地造成に伴う 事前調査

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 緯度	東経 経度	調査期間	調査対象面積 (m ²)	調査原因
むしろいせき 虫取遺跡	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 いすみよしろくし 橋町東1048番166 調査番号2019-11	272060	34度 28分 30秒	135度 24分 35秒	20190719	101.6	個人住宅建設に 伴う事前調査
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 いすみよしろくし 板原町一丁目253番9、253番 13 調査番号2019-13						
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 いすみよしろくし 板原町一丁目262番、260番 7、263番の一部 調査番号2019-18						
ちほらじよしと 千原城跡	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 ちはらじよしど 千原町二丁目220番 調査番号2019-12	272060	34度 29分 28秒	135度 23分 51分	20190820	661.6	その他建物建設 に伴う事前調査
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 かわのうちよし 河原町114番5、125番1 調査番号2019-01						
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 しづやだよし 清水町83番、84番1、84番3、 85番、90番の各一部及び水路 じよしよじよ 敷里遺數						
いせきほんじい 遺跡範囲外	調査番号2019-02	272060	34度 30分 00秒	135度 23分 38秒	20190111	2,412.5	宅地造成に伴う 事前調査
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 じのめのじよ 東雲町200番1 調査番号2019-03						
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 きたとうじよ 北豊中町一丁目570番1 調査番号2019-04						
虫取遺跡	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 とうめいよ 東雲町243番1、244番1の一 部、244番3、249番4、249番5、 249番6 調査番号2019-06	272060	34度 30分 15秒	135度 24分 53秒	20190517	2,334.5	共同住宅建設に 伴う事前調査
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 東雲町1番 1、2番1、3番1、4番1、5番、6 番1 調査番号2019-17						
	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 東雲町1番 1、2番1、3番1、4番1、5番、6 番1 調査番号2019-17						

立会調査

虫取遺跡	おおかかふいぜみおおつし 大阪府泉大津市 いすみよしろく 虫取町二丁目1419番～二丁 目1461番地内	272060		34度 29分 39秒	135度 24分 27秒	20190930	58.5	下水管敷設に伴 う立会調査
------	--	--------	--	-------------------	--------------------	----------	------	------------------

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
穴田遺跡	2019-14	集落跡		なし	なし	
池浦遺跡	2019-15	集落跡		なし	なし	
豊中遺跡	2019-10	散布地・集落跡	縄文 古墳 中世 平安 中世	溝	土師器・須恵器	
	2019-16			なし	なし	
池上曾根遺跡	2019-08	集落跡	弥生 古墳 奈良 平安 中世	なし	なし	
	2019-09			なし	土師器・須恵器・瓦	
	2019-19			なし	なし	
	2019-20			なし	なし	
	2019-21			なし	なし	
	2019-05			なし	なし	
虫取遺跡	2019-07	集落跡	弥生 古墳 中世	なし	なし	
	2019-11			なし	なし	
	2019-13			なし	なし	
	2019-18			なし	なし	
千原城跡	2019-12	城館跡	中世	なし	なし	
遺跡範囲外	2019-01	-	-	なし	なし	
	2019-02			なし	なし	
	2019-03			なし	なし	
	2019-04			なし	なし	
	2019-06			なし	なし	
	2019-17			なし	なし	

泉大津市文化財調査報告56

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報39

2020年（令和2）3月31日

発行・編集　　泉大津市教育委員会
　　　　　　　生涯学習課
　　　　　　　泉大津市東雲町9番12号

印　　刷　　大栄印刷株式会社